

# CHRONOLOGY

BYC 年表

西暦	和暦		出来事	内容
1922	大正 11		日本ヨット倶楽部 創立	"京一商ボート部有志集い組織した メンバー 宮崎晋一 上田健治郎 吉本正雄 安田常保 長谷川英一 安田貞一郎
		8月	スカール3艇、CATRIG艇一艇、横浜 岡本造船所にて建造	
1924	大正 13	5月	スカールレース開催	瀬田川スカールレースの嚆矢である
		12月	大津 桑野造船所にて建造 「ユングフラウ」と命名	英国ノーフォーク型キールヨット 3.5t380 平方呎
1925	大正 14	7月	琵琶湖一周帆走 (ユングフラウ号 6人 乗組 3泊4日)	
		8月	ユングフラウ号大破	"浜大津港に係留中、台風のために防波堤に打ち揚げられ大破 「ユングフラウ号修理なりたるも、その後クラブ員氣勢揚がら ず艇は尾花川地先に陸揚げしたまま雨沫霜打数年自然に朽ちて 再び使用に耐えずなりぬ」と記録あり。"
1930	昭和 5	9月	帆走倶楽部として倶楽部活動復興	
1931	昭和 6		国内 5m 級 (センターボード) 艇 2 艇建 造 大津 井口造船所	晴嵐 SAILAN、晴朗 SAILO と命名 4/29 処女帆走
			艇庫建設 日本ヨット倶楽部尾花川艇庫 (晴嵐、晴朗 格納)	
			日本ヨット倶楽部ペナント制定	メンバー 会長 大国寿吉 (大阪商科大学高等商業部教授、水上スポーツ の大先輩) 部員 宮崎晋一 上田健治郎 吉本正雄 安田常保 長谷川英一 安田貞一郎 中塚善助 各務吉三 鈴木英 安森善作 岡本専蔵 山本清一 井上半四郎 上林平三 吉本善多"
1932	昭和 7	4月	ヨットレース規則導入	Y.R.A. 常任事務局長ヘックストール スミス氏に依頼しルール ブックを入手、吉本正雄、鈴木英の両名により邦訳
		4月	艇庫建設	尾花川艇庫、大津市柳ヶ崎に移転し、更にクラブルームと新艇 庫を増設
		4月	国内 5 m 級 2 艇建造 大津 桑野造船所	晴玲 SAILEI、晴琳 SAILIN と命名 (4 艇となる)
		4月	神戸外人クラブ KRA と交歓	" 吾がクラブメンバー 10 数名 深江 KRAC を訪問 レース技術、クラブ運営を視察 吾らその後行くこと一度、彼等琵琶湖へ来ること二度 "
		4月	第一回 大毎杯ヨットレース開催 7 回 戦 柳ヶ崎沖	
		4月	帆走訓練 KRAC との交歓により帆走指導 を受ける	KRYC のメンバーテリー氏 吾が倶楽部の客員となると同時 に、彼が瀬戸内海で帆走使用していたナックル型艇を琵琶湖へ 回送、寄贈を受ける (テリーボートと呼称)。
		4月	A 級ディンギー建造	英国 (Y.R.A.) より国際単一型 12 呎級艇の設計図モールドを 取り寄せて 10 隻を大津桑野造船所にて建造、我国初のモノタ イプレースを企画実施する。
		11月	西部日本ヨット協会設立	当倶楽部メンバーの上田、宮崎、吉本、鈴木協力して設立に努 力し、大阪毎日新聞本社にて創立総会を開催する。開催にあっ て北沢 清氏の協力を得た。
		11月	日本ヨット倶楽部名称変更	日本ヨット協会設立に伴い、倶楽部名を「琵琶湖ヨット倶楽部 (BYC)」と改称する。
		11月	クラブペナント制定	
1933	昭和 8	4月	A 級 12 呎艇 10 隻完成 進水式挙行	" うち 2 隻は九州帝国大学ヨット部の懇望により分譲する セ-ル No. 命名 A 2 あかつき A12 なぎさ A 6 かすみ A14 はまかぜ A 8 さざなみ A16 まさご A10 たまも A18 やくも "
		4月	同志社大学ヨット部創立	同大ヨット部 BYC 内に創立 BYC 艇を使用し練習
		8月	吉本善多 瀬戸内海遠航	"A 級 12 呎艇にて琵琶湖疎水経由、伏見より淀川を下り瀬戸内 海を帆走する。 神戸→明石→赤穂→牛窓 (シングルハンドで遠航) "
		8月	第一回 西部日本ヨット選手権大会開催	BYC 応援のもとに西部日本ヨット協会主催として挙行
		10月	第一回 全日本ヨット選手権大会	品川沖コース 優勝 A 級ディンギー 吉本善多

西暦	和暦	出来事	内容
1934	昭和 9	9月	室戸台風により艇庫全壊する
		10月	第2回 全日本 A 級 12 呎艇選手権大会 (10/20-21) 主催：日本ヨット協会 後援：大阪毎日新聞社 柳ヶ崎沖
1935	昭和 10	7月	艇庫再建竣工式 7月28日 県、市の来賓を迎えて挙行
			水に関するスポーツ展出品 7/30-8/4 京都大丸 大毎後援
		8月	BYC：神戸高等商船学校、BYC：同大レース挙行
		8月	上田杯、安盛杯、安田杯、テリー杯等 倶楽部内レース挙行
		8月	琵琶湖杯レース 琵琶湖祭協賛のレースとして挙行
		8月	大毎杯レース 一般参加として挙行
		8月	琵琶湖帆走学校開設 ヨットスポーツの普及化を目指し、BYC 吉本正雄が校長となり帆走について開講した。
		8月	京大ヨット部誕生 BYC 内にて創立し、同大ヨット部と同様 BYC 艇を使用し帆走指導を受けた。
		8月	阪大ヨット部育成に協力 昭和9年創立した阪大ヨット部の帆走指導をした。
		9月	京大ヨット部 A 級 12 呎艇建造 9/22 A 級ディンギー 3 艇建造し BYC 艇庫に格納
			大阪湾ヨットレース 9/29 神戸高等商船学校沖 BYC 選手出場
		10月	10月6日 (晴嵐処女帆走より5年) ヨット映画会、琵琶湖ホテル
		11月	第8回 明治神宮大会出場 "11/3 横浜ヨットハーバー 出場選手：塩付、安盛、各務 委員：長谷川、上田"
1936	昭和 11	6月	ベルリンオリンピック出場 BYC 選手 吉本善多
			EINHEITS ZEHNER (E.Z.) 建造 (単一型 10m2 級艇) ベルリンオリンピックに出場した吉本選手は帰途ヨーロッパのフリートを視察して10月に帰国した。土産話と写真からドイツの湖水ヨットに魅せられ、鈴木英会員がドイツから設計図を取り寄せ、桑野造船所に発注した。
1937	昭和 12	6月	帆走叢書 III 艇型論 鈴木 英著 発刊
			同大、阪大、京大の3大学大会定期戦挙行 "6/30 BYC 艇庫沖 BYC 後援 インカレの嚆矢である。 3回戦の結果 1位 同大 60点 2位 京大 37点 3位 阪大 37点"
1937	昭和 12	6月	BYC ヨットシュレ開催 6月、7月の1週間 校長 吉本
		10月	"BYC 家族懇親会開催 松茸狩り会費大人3円小人1円50銭" 10月3日 草津郊外山寺 松茸狩り会費大人3円小人1円50銭"
		11月	第9回明治神宮大会出場 11月2～3日 横浜 Y.H. " 出場選手 吉本、谷、前田、池垣、末松 競技委員 中塚、長谷川、上田 "
1939	昭和 14		"E.Z. 級艇進水 SVARA(梵語で"空"の意)と命名。ガフリグ、前傾、後傾可動マスト、木製フォアステイ、フルバテンメインセール、ワイヤーとディスクによるリモコンジュラルミン製ラダー etc. 当時はリモコンジュラルミン製ラダー etc. 当時は限られたセール面積 (10m2) でハルの性能と、スタイルを競った。E.Z. の水線の長い、吃水の浅いハルはプレーニング型ヨットへの過程であるといえる。
			同大、京大ヨット部独立
1940-1945	昭 15-20	第二次世界大戦	1939年に始まった第2次世界大戦、1941-1945の太平洋戦争のため、倶楽部本来の活動は休止せざるを得なかった。
1946	昭和 21	4月	吉本正雄氏逝去 日本ヨット倶楽部創立提案者・日本ヨット協会創立協力者として日本のヨット普及に絶大な貢献をされ、幾多の功績を残した同氏が病のため4月24日永眠された。
		9月	BYC 保有艇進駐車接収 " 国内 5m 艇 (4)A 級 12 呎艇 (8)12 艇接収された。 代償 ¥20,000 太平洋戦争の犠牲となる。 "
		9月	島津ヨット部独立 BYC 艇庫南側に艇庫建設
		9月	第1回国民体育大会 (ヨット) 滋賀県 (琵琶湖) 開催 BYC メンバー協力する
1948	昭和 23	10月	T 型艇建造…テリーボートと同型の T 型艇 3 隻 柿阪工作所にて建造 RED FLOWER、BLUE FLOWER、WHITE FLOWERE と命名

西暦	和暦		出来事	内容
1949	昭和 24	7月	供出艇買戻 国内 5m 艇 2 隻・A 級 12 呎艇 4 隻	A 級 12 呎艇は 立命大ヨット部に 2 隻、大津高校ヨット部に 1 隻譲渡した
1950	昭和 25	5月	高校生ヨット講習会開催	BYC は新造艇を使用して高校生のヨット講習会を挙行した。
		7月	彦根ヨット講習会開催	BYC として協力した
		9月	9月 3 日ジェーン台風により艇庫壊滅	艇庫、艇とも吹き飛ばもクラブハウスは屋根の小破にとどまる ※復興・台風に強い煉瓦作りとし、上田会員経営の江州煉瓦会社の援助をえて、会員の手で復興する
1951	昭和 26	4月	BYC 会員物故者慰霊祭施行・4月 22 日京都円重寺にて 下記物故者の慰霊祭を営む	1・大国寿吉先生 昭和 24・3・20 逝去 2・吉本正雄氏 昭和 21・4・24 3・吉本善多 昭和 19・5・20 4・安田常保 昭和 22・6・20 5・浦田正三 昭和 24・5・28 6・加畑晃一 昭和 19・1・16 7・井上半四郎 昭和 8・11・17
		7月	第 1 艇庫再建完成	会員の努力と近隣各倶楽部のご援助により第 1 艇庫(煉瓦作り)再建完成 ・7月 22 日新艇庫に於て記念祝賀会を開催
		9月	BYC 第 3 艇庫を島津ヨット部(SYC)に貸与	
		10月	大津ロータリークラブ会員を招待し帆走す	
		10月	全日本インタークラブレース 柳ヶ崎沖	優勝青木、吉本組
1952	昭和 27		BYC 第 3 艇庫南側の空地进行を SYC に貸す	
1953	昭和 28		上田杯レース始まる	
		5月	BYC 第 2 艇庫再建	
			宮崎晋一会長就任	
	8月	台風 13 号による艇庫破損	屋根スレート 100 枚飛散	
1955	昭和 30		安田貞一郎会長就任	
1962	昭和 37		滋賀県ヨットハーバー完成	BYC 艇庫は埋立て工事のため 3 ケ年間艇を西側の仮設艇庫に格納していたがハーバー完成によりヨットハーバー艇庫に格納。このハーバー艇庫は埋立てのため立退きをした艇庫の代償として提供された。無償無期限の使用となる。
1962	昭和 37		シーホース 1 艇建造 J-83 横浜岡本造船所にて	
1963	昭和 38		5月 16 日 平野龍夫氏急性腹膜炎で急逝される	
1964	昭和 39	5月	宮崎晋一氏 逝去	日本ヨット倶楽部創立提案者の 1 人であり、日本ヨット協会創立その他日本のヨット普及に偉大なる貢献をされた同氏が病のため 5月 11 日永眠された
1967	昭和 42		Y15 艇 1 隻建造	
1968	昭和 43		長谷川英一会長 就任	
		6月	E 級(ヨーロッパ)艇建造 E 級 J1 1 隻建造	西之園会員フランスより設計図持ち帰る E 級普及に努力し日本ヨーロッパ級ヨット協会創立を企画
		6月	BYC 会員募集 若手メンバー充実を計る	新入会員により E 級の増艇を見る
1969	昭和 44	8月	1st HIEI REGATTA (BYC:KYC レース)	8月 24 日京都ヨットクラブ沖 BYC 優勝
		10月	E 級全日本選手権レース 10月 10 日 BYC 沖	BYC 主管 BYC 選手城、上林、青木昭
1970	昭和 45	9月	2nd HIEI REGATTA (BYC:KYC レース)	9月 27 日 BYC 沖 KYC 優勝
		10月	BYC 会長杯レース 10月 25 日 BYC 沖	会長杯は持ち回りとす 優勝 野田
		12月	BYC 忘年会 12月 26 日ホテル西山	久しぶりに大勢の会員出席、中塚氏の 40 年前の 16mm 映画 3 巻上映
1971	昭和 46	5月	遠航会開催 5月 2～3 日大津←南比良田中屋一泊	参加艇コンガ、シーホース、Y15,E(八隻)計 11 隻 参加人員 18 名・E 級のレースを行なう
		8月	3rd HIEI REGATTA (BYC:KYC レース)	8月 29 日 KYC 沖 BYC 優勝 シーホース、Y15,E 級艇計 14 隻出場
		9月	全日本ヨーロッパ級ヨット選手権大会	9月 24～25 日 柳ヶ崎沖 BYC 主管 参加 21 艇
1972	昭和 47		E 級艇増強	E 級艇 12 隻となりチエンブロックで釣下げ格納
		8月	BYC 創立 50 周年記念 祝賀会開催	8月 5 日前夜祭琵琶湖ホテル 8月 6 日懇親レース柳ヶ崎沖
		9月	4th HIEI REGATTA (BYC:KYC レース)	柳ヶ崎沖 E 級艇 BYC 優勝

西暦	和暦		出来事	内容
1973	昭和 48	4月	滋賀県ヨット連盟に団体加盟した	
		5月	1st BIWAKO KIND REGATTA	5月5日、BYC主催で、琵琶湖に浮かぶ各種のヨットが、同時にスタートする大レースを初めて挙行了。鈴木英、城章両名が主管となって各種艇間のハンデイキャップを定める(ヤードスティックナンバー)「ビワコナンバー」により修正タイムを決定した。 参加艇種 23 艇種 出場艇数 100 隻 選手 170 名
		6月	5th HIEI REGATTA (BYC:KYC レース)	6月9日 KYC 沖 BYC 優勝
1974	昭和 49	1月	上田健治郎氏 1月17日逝去	BYC 創立および BYC 尾花川並びに柳ヶ崎艇庫更に県営艇庫建設に大いに尽力され、ヨット普及に幾多の功績があった 日本ヨット協会副会長、滋賀県ヨット連盟会長
		5月	2nd BIWAKO KIND REGATTA	5月5日 前年同様盛大に開催した
		6月	E 級艇世界選手権レース出場選手壮行会	8月ノルエー、オスロにて開催 BYC 選手 城章、吉本哲男、浜崎英実の3名の壮行会を催し健闘を祈り祝杯をあげた
		9月	6th HIEI REGATTA (BYC:KYC レース)	柳ヶ崎沖 BYC 優勝 懇親パーティー琵琶湖ホテル
1975	昭和 50		BYC クラブルーム改築	坂啓智会員の献身的な努力により艇庫の一部を本格的なクラブルームとし、2階に更衣室とロッカールームを完成した。
		5月	3rd BIWAKO KIND REGATTA	5月5日、出場艇数が多くなったため城、岩吹主管となり我国で最初のゲートスタートを採用した。E.Z艇をパスファインダー艇とし素晴らしいレースが展開された。
		9月	7th HIEI REGATTA (BYC:KYC レース)	KYC 沖 BYC 優勝
1976	昭和 51		BYC 規約一部改定	4月4日の定期総会で可決 入会金を20万円とする
		5月	クルーザー楽浪(さざなみ)号進水5月2日	BYC メンバー有志による楽浪号の進水式挙行
			4th BIWAKO KIND REGATTA	5月5日 前年通り盛大に開催した本年はレース後艇庫前に特設した宴席でビールパーティーを催し好評を博したなお席上クラブルーム完成に多大の尽力をされた坂啓智会員の労をねぎらい感謝状と記念品を贈呈したクラブ旗3流を新調した。
		6月	滋賀県教育長宛に滋賀県ヨットハーバー管理運営に関する質問状を発送し、更に滋賀県ヨットハーバー管理委員長、森岡氏宛に分担金に関する質問状を送った	
	8月	8th HIEI REGATTA (BYC:KYC レース)	柳ヶ崎沖 BYC 優勝懇親パーティー琵琶湖ホテル	
1977	昭和 52		5th BIWAKO KIND REGATTA	5月5日前年通り盛大に開催した 参加艇種 23 艇種 出場艇数 140 隻 選手 177 名"
		7月	7月3日 BYC 運営委員会開催	1.ハーバー運営委員会よりの申し出に対し予てよりの BYC としての見解を再確認して対処することとした。 2.ハーバー運営委員会から秋山会員が仲介した意向を聴取する 3.BYC より以前にハーバー管理委員長宛に提示した BYC の見解書を改めて秋山会員に手渡して委員長へ送達を要請した。
		9月	9th HIEI REGATTA(BYC:KYC レース)	KYC 沖出場艇 ソリング、シーホース、E 級 強風の為マーク流失 1 回戦のみ BYC 優勝

西暦	和暦		出来事	内容
1978	昭和 53	5月	6th BIWAKO KIND REGATTA	5月5日前年通り開催 出場艇数20%程減少 協賛景品の福引き抽選会を実施して好評であった。
			同日 BYC 臨時総会開催	OP クラブの運営について BYC 主管でやるか否か、OP 子弟を持つ会員が再協議を して具体案を作成し改めて提案することとした。
		8月	NHK TV 「昭和回顧録」放映(8月2日)	NHKTV「昭和回顧録」8月2日 NHK で BYC 中塚善助会員が 大正末期から昭和初期に BYC のヨット活動を 16mm フィルム で撮影した「湖面に映える白帆群」を放映し日本ヨット協会 小沢吉太郎氏と BYC 長谷川英一会長が対談した NHK 教育番組 チーフディレクターの上野重喜氏より中塚善助氏撮影のフィル ム6巻を2巻にプリントして BYC へ寄贈された。 昭和回顧録の放映を小橋会員がビデオ録画更に同じビデオカ セットを関西テレビニュース解説委員美保達郎氏から長谷川会 長の喜寿の祝として贈呈された。
			BYC 運営委員会開催 8月22日	BJYC(OP)の取扱は BYC としては関与しないことにな った。
		9月	10th HIEI REGATTA (BYC:KYC レース)	柳ヶ崎沖 BYC 優勝・レース終了後新装なったクラブルームで 「昭和回顧録」のビデオを観賞し、10周年記念懇親パーティー を盛大に挙行了。 OPE, シーホース使用
		10月	大塚清光氏 10月20日逝去	
1979	昭和 54	1月	中塚善助氏 1月15日逝去	BYC 創立以来ヨット普及 やクラブ内外に多大の功績を残された
		5月	7th BIWAKO KIND REGATTA	5月5日 例年通り柳ヶ崎コースで挙行 出場艇種 22 艇種 出場艇数 87 隻 選手 150 名
		9月	1st HIEI REGATTA (BYC:KYC)	KYC 沖 BYC1 点差でからも優勝 シーラーク 3:3
1980	昭和 55	4月	80 年定期総会 4月6日	役員改選 副会長：鈴木英 運営委員長：長谷川和之 運営委員増員(2名) 松田、山田
		5月	12th HIEI REGATTA (BYC:KYC)	5月2日 柳ヶ崎沖 レーザー 3:3 BYC 優勝
		7月	8th BIWAKO KIND REGATTA	7月27日 例年通り柳ヶ崎コースで挙行晴天 出場艇種 20 艇種 出場艇数 92 隻 選手 150 名
1981	昭和 56	7月	9th BIWAKO KIND REGATTA	7月26日 コース柳ヶ崎沖 本年はコンピューターを導入して本部船からの無線通信の着順 を陸上本部でインプットして所要タイムの記録をナンバーにより 修正しプリンターに表示する作業を実施した。本部船 城、 岩吹、八木 陸上本部 青木英明担当 参加艇種 24 艇種 参加艇数 84 隻 選手 120 名 今年よりウインドサーフィンも参加した。
		8月	滋賀県保健体育課長宛にハーバー管理運 営に関する質問状を提 出した。	
		9月	同志社大学ヨット部唐崎艇庫落成式	9月6日 昭和8年 BYC 柳ヶ崎艇庫で創立した同大 ヨット部が唐崎の湖畔に立派な新艇庫を建設し、その落成 式が挙行された BYC 会長も祝辞を述べた。
		10月	13th HIEI REGATTA (BYC:KYC)	KYC 沖 引き分け
1982	昭和 57	1月	臨時総会開催	1月24日 創立60周年記念行事に関して協議した。 (1) 記念式典昭和57年7月25日(日) (2) 同日カインドレガッタを記念行事として併催する
		7月	10th BIWAKO KIND REGATTA 琵琶湖ヨット倶楽部創立60周年記念祝賀 会	7月25日 於 倶楽部ハウス並びに艇庫 BYC60周年を記念して『BYC60年の航跡』記念誌を編集した。
		10月	14th HIEI REGATTA (BYC:KYC)	10月17日 BYC 沖 KYC 優勝
1983	昭和 58	3月	鈴木英副会長逝去	倶楽部の隆盛並びに日本ヨット界の発展に多大の貢献をさ れた同氏が病をえて3月4日永眠された。
		4月	同志社大学ヨット部創立50周年式典 4 月10日	代表参列 於琵琶湖ホテル
			京都府ヨット連盟に加盟	
		7月	11th BIWAKO KIND REGATTA	7月24日 参加艇種 31 艇種 参加艇数 102 隻 参加選手 150 名
		9月	15th HIEI REGATTA (BYC:KYC)	KYC 沖 BYC 優勝

西暦	和暦		出来事	内容
1984	昭和 59	3月	84年度定期総会開催 3月21日	役員改選 名誉会長 長谷川英一 会長 青木弘 副会長 長谷川和之 運営委員長 真田恒男 運営委員 前年通り 18名
		5月	倶楽部艇の購入計画発案	購入艇種 YAMAHA CICALA 2艇 購入予算 \1,200,000(2隻) 納期 昭和59年7月15日 以上6月決定
		7月	新倶楽部艇入荷進水式 7月15日(日)	命名 1号艇晴嵐(SAILAN) 担当 坂 会員 2号艇晴朗(SAIO) 担当 大塚 会員 曇り時々小雨の天候であったが進水式後、分乗試走する
		7月	12th BIWAKO KIND REGATTA	7月22日 晴れ時々曇 出場艇 81艇 新倶楽部艇も出場晴嵐 27位 晴朗 29位
		8月	長谷川英一名誉会長 逝去	BYC 創立者の1人として倶楽部の隆盛と日本のヨット普及に 努力され多大の功績を挙げられたが病を得て 8月26日永眠さ れた。
		9月	16th HIEI REGATTA (BYC:KYC)	9月9日(日) 故長谷川英一名誉会長 追悼レース KYC 優勝
1985	昭和 60	1月	新年宴会開催 1月27日(日) 於 ホ テル京阪(京都)	参加者 21名 NHK 放送録画(故長谷川英一氏出演)等を見て 有意義に終る
		4月	"85年度定期総会開催 4月6日 於 倶 楽部ハウス	役員 全員留任 年会費の値上げ(正会員のみ) ※休会員は従来通り※
		6月	安田貞一郎氏逝去 6月17日	BYC 創立者の1人として倶楽部の内外に亘り多大の功績 を残された
		7月	13th BIWAKO KIND REGATTA	7月21日 晴れ N.E3-4m 出場艇 84艇
		9月	17th HIEI REGATTA (BYC:KYC)	9月8日(日) KYC 担当 BYC 優勝
		10月	舵杜 田久保氏 BYC 取材	
1986	昭和 61	3月	白崎謙太郎氏 BYC 取材(日本ヨット史編 纂)	
		3月	秋山福夫会員 I.Y.R.U. ジュリーに就任	
		4月	86年度定期総会開催 4月6日 於 倶 楽部ハウス	役員全員留任 滋賀県ヨットハーバー艇庫部会発足 (長谷川副会長部会長)
		7月	イタリア「OVER SEA」出版社に BYC の 歴史送付	
		7月	14th BIWAKO KIND REGATTA	出場艇 65艇他の競技と重なり出場艇少なく残念なり。
		10月	18th HIEI REGATTA (BYC:KYC)	10月19日(日) 曇時々雨 N.E.10-15m KYC 優勝
1987	昭和 62	3月	87年度定期総会開催 3月29日 於 倶楽部ハウス	役員全員留任 ☆永年懸案になっていた BYC とハーバー管理委員会との間の 問題が次のように解決した 1) 艇庫分担金(艇庫使用についての必要経費)を各使用者が負 担 (BYC は年 \165,000)1977-86 分 \1,650,000 を支払 う 2) 艇庫内の格納艇については無料とし、支払い済み分につ いては返金される
		7月	15th BIWAKO KIND REGATTA	7月26日 晴れ時々曇 N.NE.3-5m 出場艇 83艇 晴嵐、晴朗も出場善戦する。
		10月	19th HIEI REGATTA (BYC:KYC)	10月4日(日) KYC 担当 KYC 優勝

西暦	和暦		出来事	内容
1988	昭和 63	3月	88年度定期総会開催 3月27日於倶楽部ハウス	役員全員留任 HIEI REGATTA 第20回を記念しての計画 9/10(土) 前夜祭ミシガン船上にてパーティー 9/11(日) 記念レース. 格納料金の返却(ハーバーより個人へ)(7名 36万円) 会則改正 1) 会計年度を毎年1月1日より12月31日とする 2) 海外勤務者の(海外在勤中)年会費を免除する
		4月	城章氏 4月13日 急逝	氏はビワコナンバーの設定、ゲートスタートの採用等、BKRの運営に関し特に貢献された。
		5月	5月14日運営委員会(臨時総会)開催	県ヨットハーバーの立替について 要旨:現在の艇庫を取り壊しその後方に2階建ての共同建物を建築する。 ・回答・BYCとしては今日の形態(クラブハウスと独自の艇庫)を現在スペースで確保することを要求する [6/19艇庫部会へ回答] ・倶楽部の活性化を計るため次の制度を制定 1) ファミリー会員制の制定(会費無料) 2) 世襲会員制度の制定 3) 準会員制の制定 4) 個人艇の保管料徴収
		7月	16th BIWAKO KIND REGATTA	7月24日 小雨模様 出場艇 56艇
		9月	新琵琶湖ヨット倶楽部会則並びに細則(1988・4付)配布	
		9月	20th HIEI REGATTA (BYC:KYC)	前夜祭9月10日(土) ミシガン船上にて開催 記念時計を新調し両倶楽部に掲げる 記念レース9月11日(日) 前日共に小雨模様なれど友好裏に終了する BYC 優勝
1989	平成元	3月	89年度定期総会開催 3月26日 於倶楽部ハウス	役員 会長 副会長 運営委員長 留任 運営委員 吉本、秋山、小橋、西之園、坂、岩吹、松田、大塚、小城、奥田、直海、谷口 ハーバー建替一時中止状態 E級次回オリンピック(バルセロナ)女子種目に決定
		7月	17th BIWAKO KIND REGATTA	7月23日 晴れ N4~5m 出場艇 76艇
		9月	21st HIEI REGATTA (BYC:KYC)	9月3日 KYC 沖 大雨 BYC 優勝
1990	平成2	2月	90年度定期総会開催 2月10日 於ホテル京阪	役員全員留任 県ヨットハーバー水位低下対策工事(90/3-91/4) ハーバー工事の為今年度のBKRは中止する 総会后新年宴会於東天紅
		10月	22nd HIEI REGATTA (BYC:KYC)	10月14日 BYC 担当 晴時々曇 W2~3m BYC 優勝
		12月	12月9日 新海王丸、日本丸見学 於神戸港	
1991	平成3	1月	91年度定期総会開催 1月19日於ホテル京阪	役員 全員留任 総会后 新年宴会 於 東天紅
		6月	6月15日 運営委員会 開催 於 オーク	創立70周年記念式典の打合せ他
		7月	18th BIWAKO KIND REGATTA	7月21日 快晴 出場艇 60艇(BYC5艇)
		9月	23rd HIEI REGATTA (BYC:KYC)	9月29日 KYC 担当 晴時々曇 BYC 優勝



西暦	和暦		出来事	内容
1992	平成 4	1月	92年度定期総会開催 1月25日 於 ホテル京阪	役員(全員留任) 会長:青木弘 副会長:長谷川和之 運営委員長 真田恒男 運営委員 吉本哲男、秋山福夫、小橋正、西之園晴夫、坂啓智、 野田治、岩吹稔、松田進、大塚康行、小城正義、奥田任克、直海 将、谷口正治 晴嵐担当の坂委員を吉本委員に変更 BYC 創立 70 周年記念行事他について 総会後 新年宴会 於 東天紅"
		5月	5月4日名誉会員であった安盛善作氏が、 また5月23日には同じく各務吉三氏が 逝去された。	両氏共倶楽部創立の初期から倶楽部の発展に寄与された方々で ある。
		7月	7月19日 E.Z.(EINHEITS ZEHNER・セー ル面積 10m2) の再進水式	"昭和14年(1939)に進水し、倶楽部のシンボル艇として永く その勇姿を誇っていた E.Z. も 53 年の年月には勝てず大分老朽 化していたが、吉本哲男会員の絶大なる努力により今ここに蘇 ることができ再進水を喜びの内に挙行了。吉本会員の労を多 謝すると共に永くシンボル艇として引き継がれることを祈念し たい。 ☆倶楽部として歴史的に由緒のある艇その他としては次の様な ものがある 1) テリーボート (PIONEER) 昭和7年(1932)に神戸外人クラブ (KRAC) メンバーのテリー 氏が BYC の客員となると同時に BYC に寄贈された艇であり戦 後昭和23年に3艇建造された T 型艇の原形であり由緒あるも のである。 2) カヌー 2 隻・・・このカヌーは戦前南洋委任統治であったど こかの島から会員によって持ち帰られたもの 3) スカール・・・瀬田スカーリングクラブ(当時は日本スカーリ ングクラブ) 木村会長所有のものを長谷川(和) 会員が昭和26 年頃譲り受けられたものであり、船体がアルミと云う非常に珍 しいものである"
		7月	19th BIWAKO KIND REGATTA	7月26日 BYC 創立 70 周年記念レースとして挙行 京都府国体予選と重なり出場艇が 67 艇 (BYC5 艇) にとどまっ たが、晴天下盛大なるレースを挙行了した
		9月	24th HIEI REGATTA	9月13日 BYC 創立 70 周年記念レースとして挙行 レース終了後「琵琶湖ヨット倶楽部創立 70 周年祝賀会」挙行 琵琶湖汽船『BIANCA』船上にて なお EZ の修復に貢献のあった吉本会員に感謝状と金一封を贈 る ☆年譜『BYC70 年の航跡』1922-1992 を発行した"
1993	平成 5	8月	ニッポン・ヨットクラブ設立	ニッポン・ヨットクラブ会長 木村太郎氏より、初代 BYC (設 立時、日本ヨット倶楽部) の名称をアメリカズカップホストク ラブとしてのクラブ名称に用いることに対する敬意を表しての 案内状を受ける。
			25th HIEI REGATTA	
1994	平成 6	3月	年次総会/新年会	3月6日開催
		7月	琵琶湖カインドレガッタ開催(7月24日)	日本で初めてのパシュート方式を採用した。
		8月	レーザー級世界選手権大会 於・和歌山 マリーナシティ(8月10日～29日)	レーザーワールド・ラジアルワールド、及びマスターズワ ールドが、リゾート博覧会開催期間中の和歌山マリーナシ ティにて開催され、マスターズワールドではアプレンティス部門で秋山 紀夫氏が日本人で初優勝した。会員参加はワールドに秋山紀夫 (93位)、マスターズには秋山紀夫氏(優勝)、青木英明氏(12 位)、本田和也氏(?位)と健闘した。
		9月	26th HIEI REGATTA (BYC ホスト)	9月15日 BYC 優勝、舵輪を奪回
		11月	レーザーラジアル全日本選手権大会開催 (11/26-17、BYC ホスト)	

西暦	和暦		出来事	内容
1995	平成 7	1月	阪神淡路大震災	
		2月	年次総会／新年会 於・BYC クラブハウス (2/5)	吉本哲男氏が新会長に就任、キャプテンは青木英明氏が留任。艇庫改築問題を控え、クラブの今後のビジョンについて話し合った。 総会後、クラブハウスにて直海将氏のご好意で豪華なふぐちり・フグ鍋パーティを開催した。
		2月	レーザー級琵琶湖選手権大会 (2/12) BYC ホスト	
		4月	レーザー級関西選手権大会 (4/29-30) BYC ホスト	
		6月	レスキューボート (和船) 入手	レーザー琴の浜フリート解散に伴い、レスキューボート (FRP和船) を譲り受けた。
		7月	艇庫整理 (備品搬出) (7/23, 30) 7/30 艇庫さよならパーティを開催	会員、ボランティアが集まり、艇庫解体に備え、艇・備品の運搬作業、廃棄作業を行った。 E Zは滋賀県艇庫、パイオニアは壱兵衛造船へ修復作業へ、クラブ艇のシカールはKYCに預けた。会員の艇はハーバー内に簡易収納ラックを設け、収納した。なお、恒例の琵琶湖カインドレガッタはハーバー工事予定と重なり、本年度はやむなく中止とした。"
		8月	艇庫解体 (新艇庫工事開始)	昭和 38 年以来慣れ親しんだ蒲鉾型艇庫が解体
		9月	27th HIEI REGATTA 於 KYC	9月 10日 BYC 優勝
		1996	平成 8	1月
3月	浜大津港の噴水完成			
7月	パイオニア修復 試乗会 於・近江舞子ホテル			1996年 7月 14日 1933年建造の「パイオニア」号 (13.5ftセーリングディンギー：神戸外人ヨットクラブより寄贈を受ける) 長谷川和之氏の尽力で壱兵衛造船により修復され、この日近江舞子ホテル前のビーチで再進水式を行った。当日は大勢の会員が集まり、帆走の後、バーベキューパーティで祝った。また、修復の功労として長谷川氏に感謝状と記念品が授与された。
9月	28th HIEI REGATTA 於KYC (BYC ホスト)			9月 8日 BYC ホスト年だが、柳が崎ヨットハーバーは新艇庫改修工事のため、KYCの場所を借り、運営はBYCで行う形で開催した。結果、KYCの優勝であった。
9月	臨時総会開催 於・ホテル京阪 (9/26)			建設中の県立柳が崎ヨットハーバー新艇庫への入居形態に関し協議、1F艇庫2スパンを契約、入会金を減額し (10万円、分割可に)、新入会員を広く募集する拡大活性化案 (青木案) が了承された。
11月	県立柳が崎ヨットハーバー竣工 (11/24)			新艇庫 1-1 に入居

西暦	和暦		出来事	内容
1997	平成 9	1月	青木弘名誉会長が逝去	長年に渡り、BYC 発展のために功労された、青木弘名誉会長が1月29日逝去された(享年75才)。葬儀は多くの会員の参列の元2月1日に執り行われた。
		2月	年次総会/新年会(2/2)	秋山福夫氏が会長に選出、キャプテン青木英明氏、パイスキャプテン本田和也氏、会計岩吹稔氏、監査松田進氏 18名の新入会員を迎える:上野美子、大西貞安、奥村広子、川建治、塩路卓也、高林正幸、高山勝、田中義文、坪井良夫、中川利夫、名倉海子、野間昭典、長谷川稔、蜂須賀弘美、松浦孝年、真中卓二、水上真吾、森勝彦(順不同、敬称略)
		1月	レーザー収納ラック製作	新艇庫へのシングルハンド艇効率収納のため、1人で収納可能な横置きラック台車を設計、製作。青木英明氏とレーザー琴の浜フリースト桜木健一氏共同で考案・設計、桜木氏自身の手作り試作が完成した。シングルハンド艇を2艇収納可能でキャスター付で移動可能、備品、衣類もラックにオールインワン収納可能で、狭い艇庫内に効率良く艇を収納可能。この後、このラックを増産し用いている。
		5月	"クラブ艇「テザー」2艇 進水式(5/18)"	旧シカウラに替えて新艇購入、「SAILIN」「SAILEY」と命名
		6月	テザー西日本選手権(6/7-8)をBYC主管開催	クラブメンバーも活躍(川建・真中組3位、秋山(紀)・広沢組6位)
			[新艇庫部会] 結成会議 於 BYC (7/6)	新艇庫利用者の団体および旧ディンギー部会の継承組織として、「県立柳が崎ヨットハーバー新艇庫利用者協議会」を発足承認
		7月	レーザー級関西選手権(7/18-19、BYCホスト)	
		7月	琵琶湖カインドレガッタ 台風接近のため中止(7/27予定)	
		9月	29th HIEI REGATTA (KYCホスト)	9月7日開催 KYCが優勝
		11月	"「SAIL おおつ」第1回検討会 於・ホテル京阪(11/1)"	出席者:長谷川(BYC)、秋山(BYC、京都府連)、山田(滋賀県連)、三井(NORC)、青木(BYC) 新企画「SAIL 大津」について、開催主旨を滋賀県連、京都府連に説明、共済の賛同を得る。
		12月	秋山会長、京都新聞「五大賞(体育賞)」を受賞(12/4)	秋山会長(京都府ヨット連盟会長)が、長年に渡るヨット界の充実と発展に寄与した功績から、京都新聞「五大賞(体育賞)」を受賞
		1998	平成 10	2月
7月	レーザー級全日本レディス選手権大会(7/25-26、BYCホスト)			奥村広子会員が見事優勝、ワールド行きの権利を獲得
8月	日本ヨット協会団体登録を受ける(8/22)			ISFA 競技規則を使用する主催団体としての登録で、BYCは都道府県連盟下組織ではなく、日本ヨット協会直属の登録団体として認定を受けた。同様の団体は、他に江ノ島ヨットクラブ、関西ヨットクラブ、和歌山マリナーナシティヨットクラブ、京都ヨットクラブなど数団体のみである。
9月	神奈川国体にBYCより3名が参加(9月12日)			真中卓二氏(成年男子シングル、京都府)、奥村広子氏(成年女子シングル、滋賀県)、名倉海子氏(成年女子シングル、高知県)
9月	30th HIEI REGATTA (BYCホスト)			9月27日開催 BYCの優勝
10月	第1回「SAIL おおつ」開催(10/10)			大津市制100周年事業の一環として、10月10日大津祭の日にあわせて開催、整備された大津市なぎさ公園の岸沿いにコースを設ける、岸から見学でき、一般市民も見て楽しめるヨットレースを実施した。京都新聞社主催で合計150艇の参加を得て、成功裏に終わった。
11月	クラブデー&「SAIL おおつ」反省会(11/8)			湯豆腐鍋を囲んで「SAIL おおつ」開催の労をねぎらった。

西暦	和暦		出来事	内容
1999	平成 11	1月	有志で余呉湖ワカサギ釣 (1/31)	トータル 200 匹を釣り、ハーバーに帰って唐揚げで舌鼓。
		2月	年次総会／新年懇親会 於・ホテル京阪京都 (2/21)	秋山会長、青木キャプテン体制続投 他に、以下の役員を選定。バイスキャプテン:本田和也、会計:岩吹稔、会計監査:松田進、ニュース委員:蜂須賀弘美、艇庫委員:真中卓二 ハーバー使用料値上げのため、会費のうち保管料を 5,000 円値上げを承認。
		9月	31th HIEI REGATTA (KYC ホスト)	9月 12 日開催
		9月	テザー級世界選手権 (於・浜名湖)	蜂須賀・森組出場、女子スキッパーの部で優勝 (9/18)
		10月	第 2 回「SAIL おおつ」開催	10月 10 日開催 主催:京都新聞社
2000	平成 12	3月	年次総会／懇親会 於・ホテル京阪京都	役員留任 会計が奥村広子氏に交代
		9月	32th HIEI REGATTA (BYC ホスト)	BYC の優勝
		10月	第 3 回 SAIL おおつ開催	10月 15 日開催
2001	平成 13	2月	年次総会／新年会 於・ホテル京阪京都 (2/4)	役員改選、新会長:西之園晴夫氏、キャプテン:広沢勝政氏、バイスキャプテン:秋山紀夫氏、川建治氏、会計:奥村広子氏、ニュース:蜂須賀弘美、艇庫:森勝彦氏 新入会員:片木正好氏、勝馬登氏を承認
		9月	33th HIEI REGATTA (KYC ホスト) (9/9)	風がなく、1 レースのみ行われた。BYC の優勝。
		10月	第 4 回 SAIL おおつ開催 (10/21)	
2002	平成 14		BYC 創設 80 周年「HISTORY OF THE BYC」を刊行	
2003	平成 15		志賀町沖の水難事故のため、SAIL おおつ開催を見送った	
		10月	第 6 回 SAIL おおつ開催	
2004	平成 16	12月	名誉会員、上林平三氏 逝去	
		12月	BYC CUP	秋山選手、年間優勝
2005	平成 17	4月	レーザーラジアルスプリングレガッタ、ホスト	
			BYC ホームページ立上げ	以降、会員のコミュニケーションとして活用している
		8月	第 7 回 SAIL おおつ	本年から 8 月末開催に変更。4 0艇の参加
		8月	JUNG FRAU 回航クルージング	敦賀→関門海峡→瀬戸内→淡路サントピアマリーナまで 9 日間のクルージング
		9月	第 37 回比叡レガッタ	9/18 開催、ホスト:KYC、本年から KSYC を加え 3 クラブ対抗戦に、 優勝:KSYC、2 位:KYC、3 位:BYC
2006	平成 18	2月	新年懇親会	2/19、
		8月	第 8 回 SAIL おおつ	8/27 開催、44 艇参加、
		9月	第 38 回比叡レガッタ	9/10 開催、ホスト:BYC、 優勝:KSYC、2 位:BYC、3 位:KYC
		10月	CPYC Dan Lent 氏、BYC CUP に参加	
		12月	レーザービワコ選手権ホスト	
2007	平成 19	2月	新年懇親会	2/18、安田寛氏、Andrew Kitchen 氏入会、小城氏、シンシアのリビルド、釜山クルージング報告
		8月	第 9 回 SAIL おおつ	8/26 開催、51 艇参加
		9月	第 38 回比叡レガッタ	9/9 開催、ホスト KSYC、 優勝:BYC、2 位:KYC、3 位:KSYC
2008	平成 20	1月	総会・新年懇親会	1/27 開催、前島啓人氏入会
		4月	BYC CUP 年間表彰式&パーティ	4/20 開催、2007 年度総合優勝:秋山選手
		3月	Royal Valuna Yacht Club 訪問、バージ交換	Andy Kitchen 氏が訪問
		8月	第 10 回 SAIL おおつ	8/26 開催、61 艇参加
		9月	レスキュー「夕風」進水	9/7、スズキ 23F、115HP 船外機を中古艇で購入、ピンク号が乗艇不能状態でしばらく和船のみでの運用であった。安全性も高く、以降レース運営等に大活躍
		9月	第 39 回比叡レガッタ	9/28 開催、ホスト:KYC 優勝:KYC、2 位:KSYC、3 位:BYC
		12月	レーザービワコ選手権大会ホスト	12/7 開催
		11月	オーストリアから E Z で問い合わせ	1/6 京都新聞に紹介記事掲載

西暦	和暦		出来事	内容
2009	平成 21	1月	Artur Vlasaty 氏来日・BYC 来訪、EZ を確認	1/29 BYC 訪問で EZ 見学、京都新聞取材を受ける
		2月	総会・新年懇親会	2/15 開催、山本亮平氏入会 小城氏、本州一周 97 日航海の報告、E Z の話題報告
		4月	海津大崎に花見	レスキュー”夕風”で花見会
		4月	BYC CUP 年間表彰式& B Q パーティ	2008 年度総合優勝、森勝彦選手
		8月	第 11 回 SAIL おおつ	8/30 開催、計 70 艇参加
		9月	第 40 回比叡レガッタ	9/13 開催、ホスト：BYC 優勝：BYC、2 位：KSYC、3 位：KYC
		8月	滋賀県外殻団体見直しの提言	滋賀県行政経営改革推進委員会が滋賀県立ヨットハーバーは、売却ないしは廃止の提言がなされる。ハーバー存続要望を県連と連名で提出
		12月	におの浜沖でセーリングによるデモパレード実施	ヨットハーバー存続を求め、滋賀県連の指導の下、近隣のヨット仲間にも協力を求め、150 艇のヨットが抗議ののぼりを掲げ、セーリングで抗議デモ帆走パレードを実施。ヨットでのデモは恐らく日本で最初のこと
2010	平成 22	2月	総会・新年懇親会	2/7 開催、芝原恵子氏入会、村田和雄氏によるレーザーマスターズ世界選手権参戦報告、E Z 関連報告
		3月	琵琶湖開き湖上パレード参加	琵琶湖開きに合わせ、湖上パレードに参加
		4月	BYC CUP 年間表彰& B Q パーティ	4/11 開催、2010 年度総合優勝、秋山紀夫選手
		7月	EZ 試乗会	7/18、オーストリア遠征を控え、EZ での帆走会
		7月	オーストリア、クラシックヨットウィークに参加	7/22-25、オーストリア・ウォルフガング湖にて開催、1950 年以前建造の艇のみが参加できるクラシックヨットレースに EZ 級とオリンピック級をチャーターして参加。参加メンバーは、長谷川和之、松田進、森勝彦、青木英明の 4 名。中欧での伝統的なヨットレースに参加、日本最古級のヨットクラブからの参加に対し、最大級のもてなしを受ける。E Z の縁で大いなる親善が図れた。
		8月	第 12 回 SAIL おおつ	8/29 開催、計 72 艇参加
		9月	第 41 回比叡レガッタ	9/19 開催、ホスト：KSYC、 優勝：KYC、2 位：BYC / KSYC (同点)
2011	平成 23	2月	総会・新年懇親会	小松原賢治氏入会、 2/12 開催、オーストリアクラシックヨットウィーク遠征報告
		4月	BYC CUP 年間表彰式& B Q パーティ	2010 年度総合優勝、秋山紀夫選手
		7月	EZ 試乗会	人集まらず試乗はせず、リストアへの艇の確認を行う
		8月	第 13 回 SAIL おおつ	8/28 開催、参加 67 艇
		9月	第 42 回比叡レガッタ	9/11 開催、ホスト：KYC 優勝：BYC、2 位：KYC、3 位：KSYC
		10月	名誉会員、上田美智子氏逝去	創設者の一人、故上田健次郎氏のご息女
2012	平成 24	2月	総会・新年懇親会	鳥居貴彦氏入会
		2月	EZ 修復作業開始	KSYC 木下会長監修の元、船体のひどいプランキング間の水漏れを修理すべく、艇体の補修と塗装を会員のボランティア作業にて開始した。船体の大規模な補修・ニス塗りを行い、8 月一通りの改修を完了、SAIL おおつでセーリングを行った
		3月	会員、芝原恵子氏逝去	
		4月	BYC CUP 年間表彰式& B Q パーティ	2011 年度総合優勝、秋山紀夫選手
		5月	会員、清水泰治氏逝去	
		8月	第 14 回 SAIL おおつ	8/26 開催、参加艇数 67 艇、好天と東の安定した風に恵まれ、良いレースが展開された
		9月	第 43 回比叡レガッタ	9/9 開催 (ホスト BYC)、BYC 創設 90 周年記念行事を併設、パーティはミンガン船上で実施、さて勝敗の行方は？

